



Robert Greenler 著
Rainbows, Halos, and
Glories

195頁 1980年 Cambridge
University Press : 17.5ポンド

著者は Milwaukee の Wisconsin 大学で物理の教授をしている人。1980年初版である。日本では藤原咲平の“大気中の光象”(1933年鉄塔書院)以来この種の大気光象の書は出版されていないので興味深く読んだ。大筋において両書の内容には大差がない。ということは大気光象の分野では不明確な面があまりなく、学問としてはほぼ完成されていたという証拠かも知れない。しかし、観測が両極まで拡がり、宇宙まで拡大された結果としての新事実は新しい本書に豊富に盛られている。

簡単に内容の紹介をすると、各章毎に内容の物理的説明がされている：虹、ハロー、光柱、複合型、散乱(空や雲の色)、回折(コロナ、グローリー)、大気の屈折(ミラーージュ、星のまたたき、緑光)の7章からなり、美しいカラー写真も多い。日本の写真提供者はアラスカ大学の大竹武さんだけで、彼のが3枚入っていた。世界

各地から良い写真が集められておればなお良かったと思うので、小生も後日数コマ提供しようかと考えている。

この書は写真や絵に興味ある人に役立つだけでなく、気象事業従事者にも大いに役立つものと思う。

理由の第一は日本でこの種の出版があまりにも長い間なかったために、気象庁に光象の質問や問い合わせをしても満足な答が返ってこないという苦情を最近よく耳にするからである。「数値予報は君、物理学ではないよ」と故孫野北大教授が小生にささやいた言葉を改めて思い出している。やたらに未確認物体 UFO などがマスコミに登場するのも、気象関係者が、“それは幻日です”“彩雲です”“グローリーです”と説明できる程度の勉強もしていなくて、“見間違えでしょう”“夢でも見ているのではないですか”という答が多かったためではないだろうか。

理由の第二は、すぐに世のため人のために役立つ仕事を、という日本政府の大方針のおかげもあって、大気光象の研究など学問的興味中心の研究は、日本では伸びなかった点である。そういう意味では、先進諸国のバランス良い発展に比べ、気象分野でもエコノミックアニマル日本を感じずにはおられない。

(藤原滋水)

地球観測シンポジウム開催のお知らせ

主催：HOPES (Horizon of Observation Platform for Earth and Space) の会、東海大学総合研究機構

後援：科学技術庁、通商産業省、日本マクロエンジニアリング学会、宇宙科学研究所、航空宇宙技術研究所、電波研究所

主テーマ：Global Activities on Earth Observation

期日：昭和62年10月26日(月)、27日(火)

会場：東海大学校友会館(霞ヶ関ビル33F)

参加費：2,000円(資料代)

プログラムの概要(案)

10月26日 午前 GEMS (Global Environment Monitoring System) およびわが国の地球観測計画

午後 特別講演及び、国際海洋・大気観測計画(TOGA, WOCE, WCIP等々)

10月27日 午前 マクロエンジニアリングとしての地球環境の観測と制御

午後 特別講演及び、飛行艇による環太平洋 海洋・大気観測

連絡先：航空宇宙技術研究所

興石または中 0422-47-5911(代)

尚、引きつづき10月28日(水)~30日(金)の間、同じ会場で、HOPES の会、東海大学総合研究機構、NASA、NOAA の主催で International Symposium on Tropical Precipitation Measurements が開催されます。

連絡先：電波研究所 畚野信義

0423-21-1211(代)